

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、_：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	住関連専門店（営業担当）	・新しい商品に対する要望や興味が高く、今までと違う高額商品を求める客の声も増加し、単価も上昇している。 ・新商品により、新しい消費動向を生む可能性もあり、全体的に消費は拡大傾向である。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・地域の経済がやや良くなってきているので、消費の方に波及してくると見込んでいる。
		百貨店（販売促進担当）	・高額品を中心にブランド品が良く売れている。 ・これからお中元商戦に突入し、大きな施策を用意している。
		百貨店（販売担当）	・シーズン商品は苦戦しているが、7月のクリアランスセールには買い控えられていた客が戻ってくる。
		スーパー（店舗運営担当）	・依然、競合新規開店店舗を含めた買い回りは続くと思われるが、1か月以上経過すると、ストアコンセプトの明確化などにより、元の状態に復帰できる。
		スーパー（総務担当）	・青果物の単価の下落がいつまで続くのか心配な部分もあるが、販売数量が1ポイント程度だが前年を上回ってきており、客単価とともにプラス要因になってきた。
		コンビニ（エリア担当）	・客単価も堅調だが、客数も伸びてくる要素がある。長時間スーパーが時短形態に変更したり、競合スーパーも出店がなく、落ち着いてきている。景気は良くなりつつある。
		コンビニ（エリア担当）	・梅雨明けとともに、例年、街中の人通りが増加し最大のピークを迎えるが、今年は、現状で街中に例年以上の人通りを見かける。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・あまり、価格のことばかり聞かれることがなくなり、高額商品も動いており、徐々に良くなる。
		家電量販店（予算担当）	・大型の液晶テレビが依然と好調で、DVD録画機もオリンピックを控え、勢いは止まらない。
		乗用車販売店（統括）	・7月初めに発売される新型車に期待をしている。また、商業車も新しく発売されるので、若干上向きになる。
		自動車備品販売店（経営者）	・景況感は確実に上向いているし、夏のボーナス商戦に向け、各メーカーともAVの新製品のラインナップが出そろったので、6月、7月の販売量は伸びてくる。
		その他専門店〔スポーツ〕（店長）	・2004年はサッカーのヨーロッパ選手権、南米のコパアメリカ、8月のオリンピックが控えているため、それに向けた商品が増えるため、昨年よりもより良い数字が望める。
		その他専門店〔カメラ〕（地域ブロック長）	・手放しでは喜べる状態ではないが、現在の売上から見ると若干明るい兆しがみえている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・広島では、夏に開催されるインター杯を始め、各種団体の宿泊の予約があり、順調に部屋が埋まりつつある。
		旅行代理店（経営者）	・国内旅行は、依然として前年100%止まりであるが、海外旅行が、段々と例年並みに戻ってきているため、全体的には良くなってきている。
		テーマパーク（財務担当）	・客の声からも景気が悪いという感覚はないという向きがみられる。
		その他レジャー施設〔温泉センター〕（営業企画担当）	・開業以来の大掛かりな各種修繕を予定しており、顧客を含め一般向けの告知を実施した集客策を講じる予定である。 ・また現時点の厳しいなかにも来客客に徐々に回復の兆し
		美容室（経営者）	・客から、景気が悪いという声を聞かなくなった。
		住宅販売会社（経理担当）	・客の購入意欲には大きな変化がみられないが、新規発売物件が競合物件の比較的少ない場所で予定されているので、契約の増加が期待できる。
変わらない	商店街（代表者）	・商店街として転機となるトピックスがない。郊外型大型店の新規出店も予定されており、中心市街地の沈下に有効な手だてを打てていない。	
	百貨店（販売促進担当）	・6月上旬よりお中元商戦、7月には、夏のセールがスタートするが、主力のミセス層を中心に回復基調がみられないため、なかなか好転材料が見えない。	

百貨店（売場担当）	・総額表示は昨年秋から実施しているの、当店ではあまり影響はない。 ・今まで現金払いだった客が、ボーナスを見込んで、クレジット払いにすることが増加している。
百貨店（営業担当）	・マーケット内で、郊外と都心の分散された状況が続いていくことが考えられ、よほどのトレンド商材が出てこない限り、消費の底上げになることはない。
百貨店（購買担当）	・セールなど夏商戦において例年選挙年は買い控えが多いと言われるが、猛暑という情報もあり、夏商材が早期プロパー時から動く。
スーパー（店長）	・消費者は少しずつではあるが、税込売価に慣れてきていると思われるが、総額表示商品に値ごろ感を出すために、売価を税抜売価に合わせるなど、売上利益の確保は難しい状況が続く。
コンビニ（エリア担当）	・酒類免許緩和などによる売上上昇分以外は、販売状況にやや鈍化傾向もみられ、当面横ばいで推移する。
衣料品専門店（店長）	・単価的には、高額品顧客と廉価品顧客の二極化は続いているが、ついで買いをする客がいずれも少なく、景気状況は変わらない。
衣料品専門店（地域ブロック長）	・今後も、一品単価の減少が続くと見込んでおり、客数の増加策を構築中ではあるが、はっきりと見えてこない。
乗用車販売店（経営者）	・客の動きが、買うも一喜一憂するなど、手ごたえが感じられず、つかみどころがない状況がしばらく続く。
乗用車販売店（サービス担当）	・販売量が最も伸びる時期であるが、新車の投入予定もなく、販売量は下降気味に推移する。 ・サービス部門では点検の受注が減少している。
乗用車販売店（営業担当）	・商品力による来客数増加は見込めるが、新規の増加率から見ると、依然格段に伸びる傾向はみられない。
高級レストラン（スタッフ）	・予約状況から判断するとあまり変わらない。
一般レストラン（経営者）	・客単価は3か月前と変わらず低いが、子供用商品が増加し、家族単位の客が増加したのでこれ以上客単価は下らない。
一般レストラン（店長）	・お好み焼・鉄板焼のチェーン店だが、依然アメリカ産牛肉の輸入が再開されず、牛肉の仕入単価が高騰しており、客のニーズに合う価格で提供できない。見通しも立っていないようで我が社としては厳しい状況が続く。
観光型ホテル（経理総務担当）	・行楽シーズンを迎え、客数の伸びは見込めるが、格安プランでの利用が多く、客数の伸びの割には売上が伸びない。
観光型ホテル（スタッフ）	・先行きの予約状況が、前年度を下回っている。
都市型ホテル（経営者）	・依然として客室部門、飲料部門の回復の傾向はなく、前年割れ状態が続いている。
タクシー運転手	・10月からの任意保険強制加入と、輸送介護NPO増加により、タクシー業界は、全体が上向いても、現状と変わらないと見込んでいる。
通信会社（広報担当）	・市場全体が鈍化傾向にある。特徴的な新商品の予定がない。
ゴルフ場（営業担当）	・ゴルフ業界では、都会では景気回復がみられるようだが、地方では変わらないか、ますます悪くなっているところもあり、全体的には変わらない。
設計事務所（経営者）	・建築業界では仕事も絶対量が少なく、公共工事も少額で絶対数も少なく今後の景気対策も出ていないため、苦戦は続く。
住宅販売会社（従業員）	・受注状況が、顧客が慎重に構えていること、原材料の微値上げなどにより、今後伸びてくるような状況になっていない。
やや悪くなる	<p>商店街（代表者）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・需要と供給のバランスが崩れるなか、供給過多により単価が低く、売上減少がこの先もどんどん続く。 <p>一般小売店〔100円商品〕（店員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月ごろに、近郊に巨大ショッピングセンターが開店する予定であり、その影響を受ける。 <p>百貨店（売場担当）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競合店リニューアルや郊外店オープンによって離れていったミセスの客は戻ってきたが、ヤングの客は依然として戻ってこない。

		コンビニ（エリア担当）	・安いものを買おうとする客の動きが止まらないため、景気としては良くならない。
		コンビニ（エリア担当）	・一般的な売上の状況は少しずつ伸びていくと推測しているが、7月に近郊に大型ディスカウントストアが出店予定、また、倒産したスーパーが再建されるので、この影響が読めない。
		コンビニ（エリア担当）	・夏場のビールの売上低下が予測される上、学生の財布のひもが固くなっているため、学生の消費が上がる夏休みに期待ができない。
		衣料品専門店（販売促進担当）	・これから暑くなるため夏物は動くが、バーゲンの時期が早くなってきており、客動向やタイミングを探るのが難しい。
		乗用車販売店（店長）	・販売の動きが前年に対して悪くなってきており、売れる要因がない。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・商品の素材となる、金・プラチナとも値上りしており、商品の価格に反映され、客の購買希望価格より高くなってきている。
		一般レストラン（店長）	・客の会話の中で「プラズマテレビを買う」など、大型の買物をする声がよく聞かれることから、外食に回す費用より、大型商品に回す費用の方が増加する。
		タクシー運転手	・景気全体は上向きであるが、3割の増車があるため、タクシー業界では景気が悪くなる。
		通信会社（通信事業担当）	・弊社サービスのブロードバンド回線も必要としているところには、ほぼ普及してしまった感がある。残り少ない新規顧客の獲得を他社と競い合いや、既存ユーザーの囲い込みに今まで以上にサービスや工夫が必要になっている。
	悪くなる	百貨店（売場担当）	・大手と言われている婦人靴問屋が、軒並み前年を割っている。特に、ヤングキャリア向けブランドを展開している問屋が、前年の50%であり、今年は、ヤングキャリア層の商品が、近年ない落ち込みを示しており、今後も浮上する要因はない。
企業動向関連	良くなる	非鉄金属製造業（経理担当）	・上期一杯の社内材料には、明るいニュースもちらほらある。
	やや良くなる	食料品製造業（総務担当）	・新しいOEM商品を6月から製造することが決まり、販売量、受注量ともに増えたことより、これから良くなる。
		化学工業（総務担当）	・売上好調につき、原料調達が6か月先位から窮屈になる模様である。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・需要家の好調は今後も継続見込みであり、生産量も現在の水準を維持できる。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・原材料の高騰が気がかりである。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・新製品に対する投資意欲がわいてきている。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・増産の打診があり、対応を検討中である。また、開発部門も過負荷の予想である。
		輸送業（総務担当）	・賞与一時金後の需要が見込めるため、電化製品などの動きが良くなる。
		金融業（業界情報担当）	・原油高や米国の金利上昇の減速など、外部環境の不透明感根強いが、世界的な景気拡大基調は今しばらく継続するとみられ、当面受注量は増加基調を維持できる。設備投資も拡大見込みである。
変わらない	食料品製造業（総務担当）	・売上は、前年並みに推移している。	
	化学工業（総務担当）	・新製品開発も、原料価格と販売価格の折り合いがつかず、売上増につながっていない。	
	化学工業（総務担当）	・先月から大きな変化はない。経費節減や業務の合理化・効率化などの社内体制の整備により少し利益が出るようになったが、物流費の上昇や原燃料費高の影響を受け、収益面での景気回復は厳しい状況である。	
	鉄鋼業（総務担当）	・景気が回復傾向にあるという報道はあるが、依然として外需依存型の回復にある。円高や今後の中国を中心としたアジア情勢などを注視した見極めが必要である。	
	金属製品製造業（総務担当）	・原料価格・物流費の上昇などが懸念され、収益面に影響が予想されている。	
	金属製品製造業（総務担当）	・原材料価格の推移が不透明である。	
	一般機械器具製造業（経営企画担当）	・海外向けの自社商品の売上が北米を中心として好調であり、今後も受注予定がある。	

	電気機械器具製造業 (広報担当)	・液晶部門は、受注拡大と価格回復で上向きであるが、LED部門において価格競争が依然非常に厳しく、この傾向が引き続く。
	通信業(社員)	・営業の展開においては厳しいものがあり、今後2～3か月後に景気好転して受注増に結び付くとは思えない。 ・中期的な営業戦略で考えていかなければならないが、現段階では価格競争面で採算的には厳しいものがある。
やや悪くなる	繊維工業(統括担当)	・繊維業界は、再建する大手企業の影響を受ける。
	建設業(経営企画担当)	・依然として公共事業に依存しており、3か月後の状況については厳しい状況が続く。
	建設業(営業担当)	・依然として、官庁関係の工事量は増える見込みはないため、民間工事に頼らざるをえない状況であり、量、質とも厳しい状況は続く。
悪くなる	-	-
雇用 関連	求人情報誌製作会社 (支店長)	・地域内影響力の大きい自動車製造業の見通しも立ち、関わりのある企業の安堵感や期待を感じる。懸念材料も消え、関連企業の雇用も増加しそうな雰囲気である。
やや良くなる	人材派遣会社(支店長)	・雇用に関する景気は良くなるはずだが、必要な人材を確保できるかにより企業の優劣がはっきりしてくる。つまり先行投資と賃金や処遇により人を確保できるところの勝ち組が、雇用の景気もけん引していく。
	求人情報誌製作会社 (支社長)	・求人数の増加が相変わらず手堅い。
	新聞社[求人広告] (広告営業担当)	・新聞求人数が前年比150%以上の出稿状況であり、この状況が、当分続く状況にある。
	学校[大学](就職担当)	・全体的な就職希望者数が全国的に減少傾向であるが、当面は就職内定状況、求職状況、求人状況ともやや上向きである。
変わらない	人材派遣会社(経営者)	・人材派遣の需要は堅調で、事務職、販売職、作業職など幅広いが、企業の要求は高く、人材が不足している。
	新聞社[求人広告] (担当者)	・求人広告は機械製造などがあるがこれが一過性のものかどうかは不明である。
	職業安定所(雇用開発担当)	・製造業、運輸、通信業での求人が活発になると期待が持てる。
	職業安定所(職員)	・昨年相次いだホテル、電機メーカー、百貨店などの幅広い業種でのリストラの影響で、今もなお地域での求人マインドを冷え込ませており、求人募集を慎重にさせている。
	職業安定所(職員)	・求職者数は減少傾向を示し始めているが、管内の企業にリストラの動きもあり、先行きは不透明である。
	職業安定所(職員)	・サービス関連の求人は増加傾向である。 ・県の主力産業である建設業の工事減少で厳しくなっている。 ・小口の企業整備などが多い。
	民間職業紹介機関 (職員)	・一部の能力のある人以外は常用労働者になれない状況が続いており、常用労働者が増加していない。
	学校[短期大学] (就職担当)	・新年度を迎えても、各企業の採用担当者からは雇用に結び付くような話は聞かれず、慎重な姿勢を保っている様子が感じられる。どこの企業も今年度の採用計画については未定が多く、また現状維持を公言する企業も多い。
やや悪くなる		
悪くなる	-	-